

電子版センターだより

Gunma Prefectural Education Center

群馬県総合教育センター



- No13 -

平成27年7月15日(水)配信

<掲載内容>

	頁
1 研修講座の紹介	1
・発達障害児学習支援研修講座	
・気になる幼児の保育研修講座	
・幼児教育研修講座	
・これからの幼児教育を考える	
・世界遺産<富岡製糸場と絹産業遺産群>についての授業づくり研修講座	
・特別講義「生徒主体の英語授業」	
2 教育研修員研修「長期社会体験研修」の紹介	4
3 平成26年度総合教育センター「調査研究」について	5
4 学校におけるOJTの推進	6
5 子ども教育相談室からのお知らせ	7
6 「第13回 くま教育賞」の募集	8
7 カリキュラムセンターの新サービス	8
8 総合教育センターへ来所される方へ	9

* 編集後記 *

研修講座の紹介

～今後開催する希望研修講座等の概要を紹介します～

夏季休業中や2学期に開催する希望研修講座等の概要を紹介します。各講座への受講申込みを受け付けておりますので、是非、参加ください。なお、紹介する各講座については、総合教育センターWebページの「研修講座」(研修講座Web <http://www2.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1050001>) から実施要項をご覧いただけます。

〈 発達障害児学習支援研修講座 (講座コード3321) 〉

小・中学校の通常学級や高等学校、中等教育学校に在籍する特別な支援が必要な児童生徒の学習指導における支援内容、方法の習得を通し、実践的指導力の向上を図ることをねらいとした講座です。

【基礎コース】

講義や疑似体験等を通して、特別な支援が必要な児童生徒の特性を理解し、通常学級でできる支援の方法を学びます。

日時：7月21日(火) 13:15～16:30

内容：講義「通常学級に在籍する特別な支援が必要な児童生徒への指導」

講師 群馬大学教育学部 准教授 霜田 浩信

【発展コース】

小学校の教科の指導を中心に、通常の学級でできる具体的な支援方法を学びます。

日時：7月24日(金) 13:15～16:30

内容：講義「小学校の通常学級における特別な支援が必要な児童への指導」

講師 国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 涌井 恵

〈 気になる幼児の保育研修講座 (講座コード3381) 〉

発達障害の特徴や援助の在り方についての理解、事例を基にした協議等を通して、学級における気になる幼児に対する実践的指導力の向上を図ります。

日時：7月27日(月) 9:00～16:40(午前又は午後だけの受講も可能です。)

●午前

内容：講義・演習『気になる幼児の理解と援助』

講師 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 医師 有賀 道生

●午後

内容：協議『気になる幼児の保育上の課題』

講師 邑楽町教育研究所学校管理指導員兼教育相談室長 関根 史代

他 県内小学校、特別支援学校教諭 8名

〈 幼児教育研修講座（講座コード3231） 〉

園経営のサポート役として求められる心構えや技能、また、実践的指導の専門性を高めることで、幼児教育の充実を図ります。

日時：8月7日（金）9:00～16:40

（午前中は、ⅠコースかⅡコースの選択になります。Ⅱコースは、主任、教頭等に適した講義です。午後は、Ⅰコース及びⅡコースともに共通講義となります。）

	〈Ⅰコース〉	〈Ⅱコース〉
午前	内容：講義・演習 「幼児の運動発達と運動遊びの指導」 講師 立正大学 講師 山西 哲郎 ※運動のできる服装、体育館シューズ、 午後の講義を受けるための着替え等 を持参してください。	内容：講義・演習 「園におけるコーチングスキル」 講師 TERUコミュニケーション ステージ 代表 渡辺 照子 講義・演習「クレーム対処の在り方」 講師 学事法制課 補佐 石川 哲 行政対象暴力対策係 稲垣 和敏
午後	〈共通講義〉 内容：講義「正しい日本語と幼児教育」 講師 群馬大学 教授 藤本 宗利 講義・演習「言葉の発達と絵本」 講師 元明和学園短期大学教授 田子 文子 ※自分のお気に入りの絵本を1冊持参してください。	

〈 これからの幼児教育を考える（講座コード4010） 〉

子ども・子育て支援新制度が開始され、制度が変わる中で求められる幼児教育の質を高めるための指導力の向上を図ります。

日時：8月17日（月）13:15～16:10

内容：講義「子ども・子育て支援新制度に関する群馬県の概要」

講師 子ども未来局児童福祉課補佐（保育係長） 久保 直孝

講演「制度が変わる中での幼児期の教育の在り方」

講師 高崎健康福祉大学 教授 高梨 珪子

〈 世界遺産〈富岡製糸場と絹産業遺産群〉についての授業づくり研修講座（講座コード3091） 〉

世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」について、知識や歴史的価値への理解を深め、郷土の遺産を教材化した授業等を構想する力の向上を図ります。「富岡製糸場と絹産業遺産群」を教材として授業を行いたいと考えている先生方には、授業づくりの足がかりとなる内容が豊富に組み込まれている研修講座です。

日時：10月2日（金）9:00～16:30

●午前

内容：講義「富岡製糸場と絹産業遺産群」の歴史的価値

講師 世界遺産伝道師協会 近藤 功

講義・実習「群馬の養蚕業－歴史と現状－」

講師 県蚕糸技術センター 岡野 俊彦

●午後

内容：実習「カイコガの幼虫や繭を用いた実習」※講座コード3031「理科研修講座」と合同開催

講師 県立高崎女子高等学校 教諭 野崎 真史

実践発表「郷土の遺産の教材化を図った授業」

講師 玉村町立上陽小学校 教諭 増田 眞次

※主に小・中・特支学校の先生対象

講師 県立富岡高等学校 教諭 小西 弘通

※主に中・高・特支学校の先生対象

〈 特別講義「生徒主体の英語授業」（講座コード2350 選択受講コード090002） 〉

上智大学言語教育センター長 吉田研作先生を講師としてお迎えし、「生徒主体の英語授業」をテーマとした特別講義を行います。現在、小学校における英語の教科化が注目され、中学校や高等学校における英語教育の在り方について様々な意見が出されるなど、日本の英語教育が大きく動き始めています。こうした動きを踏まえ、生徒主体の英語授業の在り方を中心に広い視点から日本の英語教育についてお話をいただきます。

なお、この特別講義は「高校英語科ミドルリーダー養成研修」の一コマですが、小学校・中学校・高等学校、中等教育学校の教員が選択受講することができます。

日時：11月30日（月）15:00～16:30

内容：特別講義「生徒主体の英語授業」

講師 上智大学言語教育センター長 吉田 研作

ご紹介した各講座への申込みについては、総合教育センターWebページの「研修講座」（研修講座Web <http://www2.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1050001>）の「講座の申し込みについて」をご覧ください。

教育研修員研修「長期社会体験研修」の紹介 ～派遣先企業の研修からキャリア教育の実践につなげる～

長期社会体験研修員4名は、派遣先の企業において、専門的な知識・技能を身に付けるとともに組織マネジメントや人材育成等について研修を行っています。これまでの研修員の取組を紹介します。

株式会社群馬銀行

4月より新入行員対象の集合研修に参加し、銀行業務についての理解を深めました。その後、本店営業部でお客様ご案内係や預金後方業務の研修を受けました。本研修をもとに、生徒の興味・関心等に基づく勤労観・職業観の形成に向けて、授業実践を行いたいと考えています（中学校教諭）。

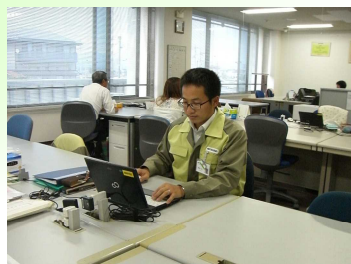


株式会社上毛新聞社

入社式を終え、前橋支局で前橋市内の大学や専門学校の入学式、展示会、イベントなどを取材し記事にしました。その後、本社運動部に配属となり、県内各地を取材しています。所属校では、この経験を通して社会人に必要な能力を生徒に伝えていきたいです（高等学校教諭）。

株式会社ミツバ

4月より総務部人事課で、社員教育と採用の業務について研修をしています。具体的には、新入社員研修や階層別教育研修、大卒の採用業務を行いました。今後は、高卒採用業務について研修をする予定です。11月には、研修内容を生かして、所属校において授業実践を行います（高等学校教諭）。



サンデンファシリティ株式会社

新入社員研修、工場実習を経て現在はECOS事業部に所属し、工場見学の受入や環境学習のサポート業務、施設管理を担当しています。様々な部署を経験し、多くの社員の方々の話を聞くことを心掛けています。会社で必要とされる人物像や能力を明らかにし、進学や就職に臨む生徒たちに伝えることができるよう頑張ります（高等学校教諭）。

☆ 総合教育センターでの研修及び所属校におけるキャリア教育の実践

センター研修では、派遣先での業務や研修の報告をしたり、研修で得た知識を学校組織の活性化に役立てるため研修員同士で協議を行ったりしています。また、研修成果をキャリア教育の充実に生かすため、所属校における授業実践を構想し、学習指導案やワークシート等を作成して10～11月に所属校の特別活動の時間等で授業を行います。実践を通して、他の教職員がキャリア教育の実践を行う際に利用できる教材や資料等を提言します。成果物については、総合教育センターWebページで公開します。

平成26年度総合教育センター「調査研究」について

～調査研究の概要紹介～

教育の今日的課題や学校等が抱えている課題の解決に向けた調査研究を行い、研修講座に取り入れています。平成26年度に取り組んだ調査研究の内容は下記のとおりです。

各調査研究に関する資料は、総合教育センターWebページの「調査研究」(http://www.nc.center.gunma.ed.jp/?page_id=440)からダウンロードできます。

〈 若手教員の育成に向けた調査研究 〉 義務教育研究係

教員の大量退職を迎え、今後、若手教員の職能成長を促す環境づくりを進めることが一層重要となります。そこで、各学校で取り組めるOJTの事例等をまとめ、活用できる資料を作成しました。

〈 高等学校における校内研修の活性化に関する研究 〉 高校教育研究係

学校組織の活性化を図るために、先生方の忌憚ない意見交換と情報共有、共通目標に向けての協働の契機となるような校内研修プログラムを作成しました。学校の課題や実情に応じて、校内研修プログラムを選択して実施することができます。校内研修の活性化につながる資料となります。

〈 CMSを活用した情報発信に関する研究 〉 教育情報推進係

インターネット環境を利用した、各学校の危機管理体制の構築を支援するために、「CMSによる学校Webページ作成テキスト」、「災害に強い学校づくりの推進に向けたインターネット環境活用促進資料」を作成しました。

〈 特別支援学級における教育課程の編成や授業づくりに関する研究 〉 特別支援研究係

初めて特別支援学級を担当する先生方が、特別支援教育における特別支援学級の役割や意義について理解を深めていただくことを目的に資料を作成しました。特別支援学級の教育課程の編成の手順や特別の教育課程、自立活動の在り方等を掲載しています。

〈 幼児期における運動に関する調査研究 〉 幼児教育センター

幼児期には、様々な遊びの中で楽しく体を動かすことがとても大切です。そこで本調査結果を基に「家庭や園での日常生活の中でできること」「よける・はう・回る動きについて」「H27年度幼児教育センター研修の案内(運動遊び関連)」について取り上げ、活用しやすいリーフレットを作成しました。

学校におけるOJTの推進

～仲間と共に成長できる学校を目指して～

学校を支えてきた経験豊かな教員の大量退職によって、学校全体の教育力の低下が懸念されています。それに伴って中堅教員や若手教員を育成するために、OJTの推進が一層求められています。しかし、若手教員を対象としたアンケートや10年目の教員から、OJTそのものの理解や認識が低いことや先輩教員とどのように関わればよいのか若手教員が悩んでいることも明らかになりました。各学校におけるOJTの推進に少しでも役立ててもらえるよう、総合教育センターではOJTに関するリーフレットの作成や研修を行っています。

※ OJTとは、「On the Job Training」の略で、日頃の職務を通して、質の高い教育活動を展開するために必要な知識や技能、意欲、態度などを意図的・計画的・継続的に高めていく取組のことです。

〈若手教員の育成に向けた調査研究〉

5ページの「平成26年度総合教育センター『調査研究』について」で紹介したように、本センターでは、〈若手教員の育成に向けた調査研究〉を行い、その結果をもとに、リーフレット「学校におけるOJTの推進」を作成しました (http://www.nc.center.gsn.ed.jp/?page_id=440)。主な内容は、「OJTの必要性」「OJTのシステム例」「OJTの場面や方法」「OJTのメリット」「OJTの実践例」です。

「OJTの実践例」では、日々の授業を互いに参観するような「ちょこっと参観」、若手教員が悩みなどを一人で抱え込まないようにするため、相談しやすい雰囲気作りを実践した「ほっとタイム」などを紹介しています。また、メンターチーム等を基に組織的・継続的に取り組む事例も紹介しています。



〈経験者研修におけるOJTの取組〉

小・中学校15年目経験者研修では、横浜市教育委員会教職員育成課育成係 北村主任指導主事をお招きし、「教師を育てる『メンターチーム』」と題して、教職員の職能成長について具体的な事例を通して学びました。

横浜市では、複数のメンターと複数のメンティを関わらせ、チームで教師力を向上させる実践を行っているとのことでした。メンターとは、知識や経験の豊かな教職員、メンティとは、初任者や経験の浅い教職員のことです。このように、チームで組織的に実践していくことが、OJTを推進していくためのポイントになります。具体例として、3者面談の練習をチームで行う取組等を紹介していただきました。



※ OJTに関する資料や情報については、義務教育研究係（直通電話：0270-26-9213）までお問い合わせください。

日常の職務の中でOJTを実践することで、若手教員を育てていくことができます。今まで行ってきたことですが、意図的・計画的・継続的に取り組むことで、さらに効果は上がります。各学校でOJTを推進し、仲間と共に成長できる学校を目指していきましょう。

子ども教育相談室からのお知らせ

～今年度からスタート！新しい事業の紹介～

子ども教育相談室では、4月より「子ども教育・子育て相談」として、乳幼児から高校生までの教育や子育てに関するあらゆる相談に対応しています。

この取組の中、今年度、新たにスタートした事業について紹介します。

「ことばの発達土曜相談」

「ことばの発達土曜相談」は、子ども教育相談室に継続して相談に来ていただいている方を対象に行っています。毎月一回、第2土曜日または第4土曜日の午前中に開催しています。言語聴覚士が子どもの発達段階に合わせ、一緒に遊んだり会話をしたりしながら、楽しくことばを習得できるようにしています。また、保護者も一緒に参加することにより、家庭における子どもとの関わり方も学んでいます。

参加を希望される方は、まず電話にてご相談ください。事前に来所による面談を行います。

「あったかスマイル相談会」

「あったかスマイル相談会」は、同じ悩みを持つ保護者同士が、子育てのことで悩んでいることやうれしかったことについて、話し合う相談会です。臨床心理士も一緒に参加します。

5月は未就学のお子さんと保護者、6月は小学生のお子さんと保護者を対象に実施しました。相談会では、保護者自身が子どもとの関わりの中で体験してきたことや、現在取り組んでいることが話題となりました。互いに共感し合ったり、自分のことを分かってもらったりする中で、参加者同士のつながりも深まり、終了後は皆さん笑顔で相談室を後にしました。

参加を希望される方は、まず電話にてご相談ください。事前に来所による面談を行います。

また、7月以降の開催日等の詳細については、総合教育センターWebページの「子ども教育相談室」(http://www.nc.center.gsn.ed.jp/?page_id=375)をご覧ください。

参加者の言葉から

「共感してもらえて、うれしかった。」

「一人でモヤモヤしていたが、気持ちが晴れた。また、今日からがんばろうと思う。」

問い合わせ先： 子ども教育相談室

0270-26-9200（電話相談専用）

「第13回 ぐんま教育賞」の募集

○募集内容 教育に関する考えや実践などについての文章・論文

【みやま未来賞(県民の部)】

・A4(1枚40字30行)で5枚以内

【杉の子賞(教職員の部)】

・A4(1枚40字45行)で10枚以内

○賞(各部門ごと)

・最優秀賞 一編(賞状・楯・図書カード3万円分)

・優秀賞 若干編(賞状・楯・図書カード2万円分)

・奨励賞 若干編(賞状・楯・図書カード1万円分)

○応募期間 平成27年9月1日(火)～10月15日(木) 必着

○応募方法 郵送または持参

○問い合わせ先

総合教育センター内 ぐんま教育賞募集事務局

〒372-0031 伊勢崎市今泉町1-233-2

TEL 0270-26-9214 (直通) Fax 0270-26-9222

詳細は、総合教育センターWebページの「ぐんま教育賞」(http://www.nc.center.gsn.ed.jp/?page_id=183)をご覧ください。

カリキュラムセンターの新サービス

今年度から新しいサービスの提供を始めました。是非ご利用ください。

教育関係資料の検索システム

カリキュラムセンターに所蔵している学校や研究機関等の研究紀要や実践報告書などを検索できる「Geduサーチ」(ジー・エデュ・サーチ)を導入しました。学校のコンピュータからもアクセスでき、都道府県名や市町村名、キーワードなどを入力すると、目的の資料を検索することができます。

総合教育センターWebページの「カリキュラムセンター」の「資料検索」(<http://www.gedu-search.center.gsn.ed.jp/index.php>)から利用できます。

教育関係図書の貸出期間延長と資料検索サービス

カリキュラムセンターで貸出をしている教育関係図書について、電話連絡をしていただくことによって貸出期間を2週間、延長することが可能となりました。また、「資料検索サービス申込書」をご利用いただくと、事前に資料を探し出しておきますので、すぐに貸出・閲覧ができます。

「団体貸出文庫」サービス

校内研修や教育研究所における文献研究や教材研究などに役立つ図書をパッケージ化し、「群教連文庫貸出パック」、「英語パック」として貸し出します。貸出を希望される場合は、事前に連絡してください。



詳細は、カリキュラムセンター (TEL 0270-26-9208) までお問い合わせください。

省エネ・節電に取り組んでいます。

◆冷房は、28度を目安に天候に応じて弾力的な運転を行っています。

○10月までの期間に来所される際は、クールビズでの来所をお願いします。

編集後記

今年度第1号、通算13号となる「電子版センターだより」をお届けします。

各学校園では、いよいよ夏休みを迎える時季となりました。夏休み期間中、総合教育センターでは指導力や専門性を高める各研修講座を開催します。受講者の皆さんが、日々の授業改善に役立てたり、学級経営や学年経営、生徒指導等に生かしたりしていけるよう、有意義な研修を運営していきたいと思えます。

なお、今後開催する各研修講座の詳細については、総合教育センターWebページの「研修講座」(研修講座Web <http://www2.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1050001>)をご覧ください。

また、2階のカリキュラムセンターでは、教育関係資料の検索システムなど今年度から新しいサービスを提供し、各学校園・教職員の研修を支援しています。当センターにお越しの際は、是非ご利用ください。(文：MT)